鈴鹿亀山地区広域連合介護保険運営委員会介護保険事業計画策定部会
令和８年度第３回会議　議事概要

日時	令和８年９月２４日（木）午後２時から午後３時２０分まで
場所	鈴鹿市役所１２階　１２０５会議室
部会員	藤原　芳朗（部会長）、藤田　浩弥、金原　耕司、岡田　圭二、服部　典子、伊藤　健司、山本　裕一、水野　恵子、小林　智子、坂　佳徳、藤本　高尚、尾﨑　郁子、手平　規矩夫　（敬称略）
事務局	鈴鹿亀山地区広域連合事務局長、介護保険課長、介護保険課管理グループリーダー、介護保険課管理グループ員３名、介護保険課認定グループリーダー、介護保険課給付グループリーダー、介護保険課指導グループリーダー、鈴鹿市長寿社会課地域包括ケアシステム推進室長、亀山市健康推進課長、鈴鹿市基幹型地域包括支援センター長、亀山市基幹型地域包括支援センター長
傍聴者	３名

１　会議の成立

２　第１０期介護保険事業計画における基盤整備

資料１に基づく説明（事務局）

（部会長）

施設整備は、相手方があることであり、事業者の意向や申出がない中で、整備計画に盛り込むことはできない。

また、施設の定員数が利用者数を上回っていることからも、施設の数はおおむね充足していると考えると整備数がゼロなのも仕方がないのではないか。

（藤田部会員）

第１０期計画では、看護小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護の公募はやめるということか。

（部会長）

そうである。

（手平部会員）

資料１の１ページ、介護老人保健施設について、グラフでは今後も定員数６００人としているが、利用者数は６００人台で推移している。介護老人保健施設は利用者希望者の入所待ちが生じているということか。

（部会長）

利用者には、鈴鹿亀山地区広域連合の被保険者で、四日市市などの圏域の外にある施設の利用者も含まれている。広域連合圏内の施設数が足りないのではないと考えてほしい。

（手平部会員）

高齢者には、施設は順番待ちでなかなか入れないというイメージがあったので、今回、このような物差しが出されたことで実態がよくわかるし、不安を持っている人も安心できると思う。利用者数が定員数を上回っているが、希望する施設にはある程度の待ち時間はあろうとも、それな

りに対応してもらえるという理解でよいか。
（事務局）
施設によっては、待機のあるところもあるが、おおむねそのとおりである。
特に入所系の施設については、北勢圏域内などある程度大きな地域の中で充足されているかどうか、を三重県が中心になって整備することになっている。広域連合圏域内の介護老人保健施設だけで見ると利用者数が定員数より多いとなっているが、北勢圏域など大きな圏域で見ると、利用者数より定員数が多く、利用者数もおおむね横ばいであるので、第１０期計画期間中に広域連合として施設の整備を積極的に進める状況ではないと考えている。

事項について部会員に承認を確認、部会員承認

３　介護予防・日常生活支援総合事業

資料２に基づく説明（事務局）
（部会長）
介護予防・日常生活支援総合事業についての計画であり、要支援の方を中心にした話である。要支援の方が要介護にならないように、あるいは自立に戻る、要支援に近い方が介護を必要としないようにするためにどのような手立てをどうするのか理解できたかと思う。

事項について部会員に承認を確認、部会員承認

４　第１０期介護保険事業計画の原案（総論、基本目標１）

（１）資料３―１に基づく説明（事務局）
（部会長）
前回の会議で説明のあった内容を形にしたものである。介護保険事業計画は、三重県、鈴鹿市、亀山市の計画等と整合を取る必要があり、広域連合だけで計画を立てることはできないので、仕方がない部分もある。

（２）資料３―２に基づく説明（事務局）
（部会長）
介護保険事業計画の総論と基本目標１について事務局からの提案を踏まえて、必要な修正を加えながら、案の作成をさらに進めていく。
（手平部会員）
広域連合として、鈴鹿市と亀山市が共同で進めていることは承知しているが、鈴鹿市と亀山市のそれぞれの事業量について、人口比からすると差があるように思えるところがある。人口比からすると、差が出るのが通常だと思うが、亀山市が鈴鹿市より多くの事業を実施していると考えればよいのか、逆に鈴鹿市が進んでいないと考えるのか、どう理解し評価すればよいか。
（事務局）
地域包括ケアシステムは、地域の実情に応じて高齢者を支援するため、同じ施策の項目であっても２市の事業内容が異なることがある。また、事業によっては、２市のどちらかの取組が進んでいるものや２市で実績の内容が異なるものもある。

（手平部会員）
鈴鹿市、亀山市の共同で事業を進めるのに、これだけアンバランスな計画値のまま計画を進めるのは納得がいかない。過去からの延長線のままでは２市で進める意味がないので、あるべき姿を２市で相談しながら進めてほしい。
（事務局）
指摘された件は、２市で実績の集計方法などが異なっていたためである。これを統一することは課題の１つであり、再度検討したい。
（手平部会員）
広域連合として事業を効率的に進めるためのことなので、例えば２市で数え方が異なるならば手法を整えるなどしてから説明されないと広域連合の意味がないし、市民代表として参加していて理解できない。
（事務局）
２市のサービス内容や活動内容を平準化させることは理想であり、各地域の実情も考慮しながら、今後も２市との協議を続ける。計画に反映できること、できないこと、しきれていないことはあるが、理解をお願いする。
（手平部会員）
一生懸命頑張っているのは理解しているので、住民にしっかり説明するというスタンスで進めてほしい。

事項について部会員に承認を確認、部会員承認

５　その他
介護保険事業計画策定部会令和８年度第４回会議の日程（事務局）